出題分析		
試験時間 60 分	**配点** 100 点	**大問数** 5 題
分量（昨年比較）〔減少 [同程度] 増加〕		**難易度変化**（昨年比較）〔[易化] 同程度 難化〕

【概評】

大問構成や問題数は昨年度とほぼ同一であった。出題範囲は古代～近現代で，一部に歴史総合範囲からの出題も見られた。原始からの出題はなく，戦後史も終戦直後の範囲が中心であった。例年出題される史料を踏まえた論述問題は，昨年度の 80 字 2 問から 100 字 2 問とやや字数が増加したが，おおむね標準的な知識で解答可能なものであった。

一部で細かい知識が問われ，論述問題である程度思考を伴う必要はあるが，前近代範囲を中心とした出題で，記述問題も問題文から解答を特定しやすいものが多かったため，全体的にやや易化したと言えるだろう。

設問別講評

問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
Ⅰ	中世・近世の仏教	鎌倉～江戸時代の文化からの出題で，おおむね標準的な内容であった。(イ)C.「鎌倉」に注意が必要だが，栄西が京都に開いた建仁寺も語群にはない。(ロ)F. やや細かい。(ハ)M. 六角氏は近江国の守護。(ニ)R. 黄檗宗の寺院としてはほかに長崎の崇福寺があり，混同しないようにしたい。	標　準
Ⅱ	現代の政治・外交	戦後史からの出題で，歴史総合範囲も含めてやや細かい知識が問われた。(イ)C・D. 日本進歩党の説明だが空欄が 2 カ所あり，やや難。E. 語群にない日本協同党が入る。4 の国民協同党（1947 年結成）と紛らわしいので注意。(ロ)H・I. やや細かいが，教科書脚注に記載がある。(ハ)ベトナムの独立に関する詳しい過程が問われた。歴史総合の教科書には記載されているとはいえ，日本史探究選択者にはかなり難しいだろう。	やや難
Ⅲ	近代の労働・女性運動	主に明治・大正期の社会史からの出題で，いずれも標準的な事項が問われた。D.『死線を越えて』で特定できる。杉山元治郎と誤らないようにしたい。E.「鞜」の漢字表記に注意。	標　準

設問別講評			
Ⅳ	古代の政治（史料）	平安時代の遷都や修造事業に関する５つの史料に基づいた出題。記述問題はヒントが多く，解答しやすい。問 1．B.「地名」という条件に惑わされた受験生もいただろう。問 2.「曽祖父」という人物関係がわからなくとも，史料の「大津」から想起できる。問 3．平城太上天皇や藤原仲成とも迷ったかもしれないが，「古京に遷さむと奏し勧め」という部分や，事件が薬子の変とも呼ばれることなどから判断したい。なお，史料は『日本後紀』から。問 5.「右府」（右大臣）は藤原実資を指す。問 6．平安時代中期以降に見られるようになった財源確保の方式に関して論述する問題。史料から，国司（受領）が私財を出して公的奉仕を行ったことを読み取りたい。	標　準
Ⅴ	近世後期の外交（史料）	史料は(イ)が天保の薪水給与令，(ロ)が異国船打払令で，いずれも頻出。設問もおおむね標準的な内容と言える。問 2・3．年号はやや戸惑ったかもしれないが，当てはまるものを考えたい。問 5．難。中々思い至らないだろう。問 9．天保の薪水給与令における幕府の異国船への対応の転換について，その背景にも触れつつ論述する問題。標準的な知識で解答できる。なお，過去には 2017 年度にもほぼ同趣旨の問題が出題されている。	標　準

合格のための学習法
慶應義塾大学文学部の日本史への対策は，合格に必要な得点を考えれば，教科書・用語集を用いた徹底的な知識の定着，それに加えて形式に慣れるための過去問演習をしっかりと積み重ねることに尽きる。過去問に見られる難問に注目しがちで不安になるだろうが，まずは得点しなければならない標準的な問題をきっちり正解するという意識を持つことが重要である。とはいえ，やはり細かい知識も用語集に掲載がある限りは出題されるものと認識して取り組むべきであろう。理解した事項をいつでも引き出せるように知識を体系化しつつ，学習してほしい。また，歴史総合範囲も出題される可能性があるため，対策は積んでおきたい。論述問題については，過去問などを利用し添削を受けて書き直すことによって上達するので，添削を依頼できる先生などに見てもらって，文章を書く力を培ってほしい。